

(人吉高等学校定時制課程) 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標
教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の定時制の高校として、多様な個性・価値観を認め合い、豊かな情操と道徳心を養うとともに郷土への熱い思いをもって活躍し、人吉・球磨地域の復興と発展を支える人材を育成します。そのため、多様な生徒の学習形態に対応した教育活動の実践や、進路実現に向けた勤労観・職業観など、身に付けるべき資質・能力の確実な定着を図り、その能力を最大限に引き出すことができる教育を目指します。今後は、ICTを積極的に活用しながら学習活動を進めるとともに、地域理解と自己理解を目指す探究学習を通して、人吉・球磨地域を中心とした地域振興に積極的に取り組むために必要な力を育てる、特色ある学びを展開します。

2 本年度の重点目標
熊本県教育委員会から示された「令和5年度(2023年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。 (1) 授業改革・確かな学力の育成 (2) 生徒指導の充実・基本的生活習慣の確立 (3) キャリア教育の推進・進路指導の充実 (4) 学校行事の活性化 (5) 業務改善・生徒と向き合う時間の確保・働き方改革の推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	学校組織の円滑な運営と活性化	スクール・ミッションの内容と本校の課題が共有され、課題解決に向けた共通実践が行われている状態	①スクール・ミッションに照らし合わせた行事の振り返りを行い、改善案を次年度の実施要項等に反映させる。 ②週に1回部長会を設定し、情報を共有することで、チームとして対応できる職員集団を形成する。	B	①行事ごとに振り返りを行い、次年度への引継ぎ資料を作成した。スクール・ミッションについては職員会議で繰り返し再確認し、全職員で内容と課題を共有しながら業務を進めることができた。 ②部長会を毎週実施し、主任・主事の情報共有と各分掌の連携を図ることにより教育活動の組織的な実施につなげた。共通実践をより一層充実させることが必要である。
	魅力ある学校づくり	魅力化と情報発信	本校の魅力について、広く認識された状態	①人定便りを毎月発行し、ホームページへの掲載や学校説明会等での配付を行う。また、ホームページのブログ(楽しくNight)を昨年度より多く更新し、本校の教育活動や特色を校内外に発信する。 ②総合的な探究の時間や生徒会行事を中心として地域と連携した教育活動をさらに充実させる。		A

	業務改善 働き方改革	生徒と向き合 う時間を確保 するための工夫	校務の削減等 が進み、職員 の時間外勤務 時間が法令で 定められた上 限の範囲内と なった状態	①ICT機器の活 用により、さら にペーパーレス 化を進め、業 務の効率化を 図る。 ②衛生委員会 や部長会にお いて、具体的 な対応策を検 討し、業務の 平準化・効率 化に取り組む。	A	①職員会議等 の資料をデー タ化及び各種 アンケート等 のICT活用よ り、業務の効 率化とペーパー レス化をさら に進めること ができた。 ②職員の勤務 状況データを とりまとめ、 毎月の衛生委 員会で検討し た。業務改善 への取組とと もに、定時退 勤に対する職 員の意識が高 まり、時間外 勤務時間は月 平均で14時 間7分と、法 令で定められ た上限を大き く下回った。
学力 向上	授業改革	授業の改善	主体的で対話 的な学びの実 践をすることで 生徒が意欲的 に授業に参加 している状態	①一人一台端 末等のICT機 器を活用し、 生徒が対話を しながら「学 びの楽しさ」 や「学びの意 義」を感じ「 達成感」を味 わう魅力ある 授業づくり に取り組む。 ②ICT機器の 活用等、テー マを絞った研 究授業と合評 会を実施し、 研修会等に参 加し、授業力 の向上及び改 善に取り組む。	A	①教師のICT 機器を活用す る意識が高ま り、様々な工夫 を行った。学 校評価アンケ ートでは全 ての生徒が肯 定的な評価で あった。達成 感のある授業 づくりが多 くできるよう なってきた。 ②共通テー マを設定し、 公開授業や研 究授業を行っ た。教師一人 一人の授業力 向上に向けて の取組を実施 することができ た。
	確かな学力 の育成	個に応じた学 習指導	生徒一人ひと りの学習面にお ける課題や習 熟状況を把握 し、個に応じ た学習指導が なされている 状態	①各教科で個 に応じた学習 指導を実施す るため、生徒 一人ひとりの 課題や習熟状 況に応じた教 材づくり等 を行う。 ②長期休業期 間に生徒の習 熟度に応じた 「オーダーメ イド学習課題 」を課し、生 徒一人ひと りの基礎学力 向上を図る。	B	①各教科で、 一人ひとりの 実態に応じた 学習指導を実 施するために 工夫を行った が、一部の生 徒には個に応 じた学習指導 が行われてい ると感じてい ないようであ った。 ②長期休業期 間にオーダー メイド学習課 題を実施する ことができた 。今後はさら に工夫改善す ることにより 基礎学力向上 を図っていき たい。
		指導と評価の 一体化	学習評価の あり方につ いて工夫・改 善がみられる 状態	①観点別評 価やポートフ ォリオ評価に ついて研究を 進める。 ②ICTを活用 しシラバスを どこでも活用 できるように する。単元や 内容のまとめ りごとの評価 方法を研究す る。 ③個に応じ た適切な評価 の在り方を	B	①観点別評 価についての 研究が進める ことができた がポートフォ リオ評価につ いては研究を 進めることが できなかった 。 ②シラバスを 電子化して活 用した。来年 度は3年生が 新教育課程の 実施となるの で研究を進め ていく必要が ある。 ③新しい科目 の実施

				研究し実践する。		があるので個に応じた評価の在り方の研究を進める必要がある。
キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育の充実	基礎的・汎用的能力の育成	生徒の実態と進路希望を丁寧に分析し、より効果的な指導ができる状態	①外部機関から有効な情報を取り入れ、キャリア部と担任、教科指導との連携を図る体制をつくる。 ②進路面談を充実させて、生徒が自らの思いを話し易い状況をつくる。	B	①就職関係においては、外部機関からの情報を得て、進路指導に活かすことができたが、教科指導面との連携をさらに効果的になるようにしたい。 ②個別面談を実施して生徒と話し合うことで、卒業後の進路に向けた取組を行うことができた。
		探究活動の充実	自己や地域の課題を客観的な視点を持って考察できる体制が準備できる状態	①総合的な探究の時間「人定my revo」(自己理解、自己革新、自己探究)を計画的に遂行する。 ②UD観光マップ・コースの外国語版を製作することで、地域を通して他文化に触れることで、客観的な視点をもてるようにする。	B	①年間計画に沿って総合的な探究の時間「人定my revo」の各種の取組を遂行することができた。 ②人吉の観光コースの外国語版の制作に取り掛かり、地域の経済や文化、社会を理解する機会となった。成果物の作成に当初の予定以上の時間を費やした。
	進路目標の達成	進路指導体制の構築	校内各部署との連携を図り、卒業予定者の進路実現を100%叶える状態	①個別指導体制である「人定アドバンスプロジェクト」を起動し、個々の生徒の進路希望に沿った指導を行う。 ②就職支援においては、外部機関との連携を深める。	A	①個別面談の結果を踏まえ、「人定アドバンスプロジェクト」を起動して個別指導に当たった結果、卒業予定者全員の進路が決まった。 ②ハローワークとの情報共有、就職ガイダンスの実施やジョブカフェランチの就労支援員の方の講演会を実施した。
生徒指導	個性の伸長	生徒理解の深化	生徒の特性や能力、可能性などが把握され、尊重された状態	①あらゆる機会を捉えて、生徒の特性や能力等を見いだすことに努め、生徒が能力を発揮し、伸ばす機会を設定する。 ②生徒情報の交換・共有の機会を年間を通じて設け、生徒の可能性を伸ばす手立てを講じる。	B	①人定祭や生徒会行事等、生徒が個性を発揮する場面を設定することができた。それらの活動を通して、多くの生徒が達成感を味わうことができた。今後は全員の生徒が達成感を味わうことができるよう、工夫が必要である。 ②週に1回、全職員での情報共有の場を設け、実施することができた。共有した情報を生徒指導に有効に活用することができた。
	自己指導能力の育成	自己肯定感の高揚	生徒の自己肯定感が高まっ	①生徒のよさを見	B	①生徒の日頃の様子などの情報を共有す

			た状態	め、励ます教育実践に努める。 ②一人ひとりの生徒に応じて適切な課題を設定し、スモールステップで課題を乗り越え、多くの成功体験を積むことができるように支援する。		ることで、職員間で連携し生徒の教育活動の充実に取り組むことができた。 ②授業や学校行事、生徒会活動の中でICT機器等を積極的に活用することで、生徒に個別の課題を設定することができた。 今後も、一人ひとりに適切な課題を設定することで、生徒が自身のよさを大切にできるよう、一層生徒理解に努める必要がある。
		自己決定力の育成	生徒が自己実現に向けて前進している状態	①様々な教育活動の場面で、生徒が選択する機会を設ける。 ②生徒が主体的に生徒会活動を行うことができるように支援する。	A	①人定祭や生徒会行事等において、生徒たち自らが自身の役割を考え、組織で活動する機会を設けることができた。 ②多くの生徒が学校行事に主体的に取り組むことができた。Google Classroom等の活用によって、役割分担を行いやすくなり、一人ひとりが主体的に取り組む活動を設けることができた。
人権教育の推進	人権を尊重する意識の高揚	教科指導・HR指導における取組の推進	生徒に、人権についての正しい理解と認識を培っていくため、教職員みずから人権についての認識を深め実践する状態	①生徒に向けての人権教育ホームルームや講演会については、より深い人権に関する認識を得るために、事前に職員研修の機会を設ける。 ②教材研究を行う上で、各教材に込められた人権問題を読み取り、授業を展開するように心がける。	B	①令和2年7月豪雨を通して、命の大切さ、人と人との絆を考える講演会を外部講師を招聘して実施した。また、職員研修を実施して、人権問題に対する認識を深めた。 ②職員研修において、人権問題について触れ、意識した授業は展開しているが、事前に各教科の人権問題を含む内容を年度初めに集約し、より意識を高めたい。
	「命を大切にすることを育む」指導	生命を尊重する意識の高揚	命の大切さや環境保全などについて指導し、人権尊重やいじめ防止の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める状態	①自己有用感や自己肯定感の高揚を図るため、面談等においては、生徒の意見を肯定的にとらえ、将来に対して夢がもてるような指導を行い、各自の進路保障につなげる取組を行う。 ②授業において、	B	①人権教育講演会では、命の大切さをテーマに取り上げた。生徒への学校評価アンケートでは約14%が否定的な回答しており、面談等をより充実させ、自己肯定感の高揚に努める必要がある。 ②授業の内容にとどまらず、合同SHR

				身近なことを課題として設定することで自らの事としてとらえ、積極的な課題解決を行うことで、自己肯定感を培う。		において、教師から身近な人権問題に触れる機会を設けた。
いじめの防止等	いじめの早期発見	いじめの認知と対処	日頃からの生徒との信頼関係の構築に努め、生徒の変化について、常に情報交換ができる状態	①各担任による面談に加え、各部による面談（年6回）を行い、生徒からの情報を共有することにより、早期対応を行う。 ②定期的に生徒情報連絡会を開催し、生徒の状況を共有し、全職員で生徒を見守る環境をつくる。	B	①担任や各部の面談に加え、職員研修を行ったが、生徒への学校評価アンケートでは約20%が否定的な回答であった。生徒がより相談しやすい環境づくりに努める必要がある。 ②毎週金曜日に生徒情報連絡会を欠かさず実施し、生徒に関する情報を全職員で共有することができた。
	いじめの未然防止	望ましい人間関係づくり	全校集会や学級活動において日常的にいじめ問題について触れ、いじめを許さない雰囲気をつくる状態	①生徒会における「いじめゼロ宣言」を前期と後期に合同SHRの時間を利用して、定期的に周知徹底する。 ②「心のきずな月間」の取組を各部と連携して学校全体の取組とする。	B	①生徒会で「いじめゼロ宣言」の内容を決定し、全校生徒に向けての宣言や宣言文の教室掲示を行った。来年度は、毎月、合同SHRで啓発活動を実施したい。 ②人間関係づくりに関する授業を行い、生徒の自己理解や他者への理解を促すことで、学年を超えた交流ができた。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	社会に開かれた学校づくり	総合型コミュニティスクールの推進	総合型コミュニティスクールとして、特に定時制の学校として地域に求められていることの明確化と解決策が示された状態	①総合的な探究の時間においてこれまで重ねてきたものを更に深化させる。 ②学校運営協議会を通じた課題の把握とその解決に取り組む。 ③学校での教育活動を更に外部へと発信していく。	B	①3年間にわたってUD観光マップや観光コース、さらに観光コースの外国語版の制作を地域の協力を得て取り組んだが、完成に時間がかかっている。 ②地域を知る取組として、地元の企業見学や、人吉温泉協会の方を招いて観光に関する講演会を行った。 ③生徒の活動の様子を随時ホームページに掲載している。今後、総合的な探究の時間等の成果物を積極的に外部へ発信していきたい。
		保護者との連携	保護者の学校活動への理解と積極的な参加が行われている状態	①秀麗会役員への連絡や安全・安心メールを活用し、情報提供を積極的に行うことで各種行事への保護者の積極的な参加を促	B	①役員への連絡や保護者へのメールを活用し、行事への案内を行った。人定祭などの大きな行事への保護者の参加は見られたが、各種講演会

				す。 ②秀麗会役員、保護者として具体的に何が出来るかを示すことで参加しやすい環境づくりを行う。	や公開授業等への参加率が上がらなかった。 ②生徒会行事（ビストロ人定やレクリエーション）を保護者参加型にできないか検討中である。来年度は早めに計画し、保護者が参加しやすい環境づくりを行いたい。
--	--	--	--	--	---

4 学校関係者評価

(1) 学校経営

- ・いじめの件数や不登校の状況など、アンケートでは見えない部分があると、不本意入学につながる恐れもあるため、可能な限りそのような情報を伝えてほしい。

(2) 学力向上について

- ・学習面では個人差が大きくなってきているが、その差が非常に大きいのではないかと思っっている。学習面で課題がある生徒もやる気をもっていけるような体制を作って欲しい。

(3) キャリア教育（進路指導）について

- ・少子高齢化について、特にこの地域は高くなっている。将来的にこの地域を心配している。高校生の頃から地域と関わってもらおうと地域の改善点などもわかるのではないか。まちづくりについて話をしているが、若い人たちの意見をもっと聞かせてほしい。

(4) 生徒指導について

- ・アンケートの中で相談や面談について、生徒・保護者と職員の間ギャップがあるが、埋めようとするのか、割り切っていくのか。面談の機会を増やすというのではなく、その役割を地域に振るなどの考え方もあっては良いのではないか。ズレは深刻な問題にはなっていないと思う。
- ・対話の中で良さを認めるなどされていると思うが、具体的に話を進めていってもらいたい。
- ・中学校でも地域に出て教育活動を行う機会が増えた。地域の祭りで中学生が神輿を担いでいる。地域に貢献、地域に出かけるよい機会となっている。地域の方に見てもらって褒めてもらうことで自己肯定感が高まる機会になるのではないか。

(5) いじめの防止等について

- ・いじめの問題については現在でも自死の問題であったり、卒業してから裁判になるようなことがあったりすることがあるので、いじめの早期発見は難しいかもしれないができるだけ早めにいじめられている生徒をキャッチしてその対応を細やかに丁寧にしていく必要があると思う。

(6) 地域連携について

- ・ボランティア活動に参加することが一番良いと思うが、募金などのできることや、ボランティアについて知る場面を作っても良いのではないか。講演などで学んでから参加しても良いかと思う。背中を押してもらおうと出やすいと卒業生が言っていた。
- ・昨年度は、保護者のアンケート回答率が低く、回答しないのは否定的な考え方が多いと話したが、今年度は回答率は高く、否定的な回答も少なくてよかった。

5 総合評価

(1) 学校経営について（「働き方改革」への取組も含む）

「学校経営方針」に関しては、部長会を毎週設定し、主任・主事の情報共有と各分掌の連携を図ることにより、教育活動の組織的な実施につなげた。「魅力ある学校づくり」は、今年度もホームページや地元新聞、各種通信等を通して、生徒の様子を発信することができ、保護者のほとんどから評価が高かった。ホームページや「Google Classroom」や「すぐーる」等を活用することができた。「業務改善・働き方改革」は、ICT機器も活用しながら業務の効率化を進め、定時退勤に対する職員の意識も高まり、時間外勤務時間は昨年度と同様に法令で定められた上限を大きく下回った。

(2) 学力向上について

学校評価アンケートでは「ICTの活用等、わかりやすい授業の工夫がされ、意欲的・主体的に参加できる授業が行われている」という項目で、職員・生徒・保護者のすべてが「よく当てはまる」か「当てはまる」と回答しており、ICT活用が進んだ結果といえる。しかし、「個に応じた学習指導」に関して、生徒・保護者ともに約20%が否定的な回答をしているため、今後さらなる授業改善が必要である。また、「指導と評価の一体化」については、観点別評価の体制を早めに整え、取り組んできた。それぞれの教科担当者が1名のみのため、今年度も五木分校との合同職員研修を実施し、教科毎の協議を行い、研究を進める機会とした。評価に関する研究は、今後も継続する必要がある。

(3) キャリア教育（進路指導）について

進路指導主事が全生徒と進路面談を実施し、進路希望について把握することができ、早期に卒業予定者全員の進路目標達成につなげることができた。「探究活動の充実」について、今年度後期の総合的な探究の時間で、昨年度までに制作した「人吉市UD観光マップ・コース」の外国語版の作成を行った。翻訳を通して、より深く人吉の観光資源について理解することができているが、予想した以上に翻訳に時間がかかり、完成が3月になる見込みである。

(4) 生徒指導について

「個性の伸長」に関して、生徒理解に力を入れ、週に一回の生徒情報連絡会において、全職員で生徒の状況を把握し共有しながら、適切な指導にあたるよう努めている。また、学校行事では、生徒が個性を発揮し、生徒自らが考える機会を設けることができ、多くの生徒が達成感を味わうことができた。「自己肯定感の高揚」については、課題を抱えた生徒もいるが、学校行事等で一人一台端末を活用し、一人一人が主体的に取り組む場面を設けることができた。学校評価アンケートでは目標の100%には届かなかった。

(5) 人権教育の推進について

全教科、全領域において、人権教育につながる指導を行うことができた。「命を大切にすることを育む指導」においては、ソーシャルスキル・トレーニングを実施し、「人権を尊重する意識の高揚」と「命を大切にすることを育む指導」の両方に関わる人権教育講演会として、大和一酒造元の下田代表を招き、命の大切さや人と人との結びつきについて講演会を実施することができた。

(6) いじめの防止等について

「早期発見」については、年に3回行う心のアンケートのほか、定期的な面談の実施で生徒の状況を把握し、毎週実施している生徒情報連絡会において、職員間で情報を共有することができた。しかし、学校評価アンケートでは「面談等を通じて悩みを相談しやすく、いじめの未然防止と早期発見に向けた取組が効果的に行われている」の項目に対し、生徒・保護者の約2割で否定的な回答があった。「未然防止」については、生徒による「いじめゼロ宣言」など啓発活動を行っているが、来年度は毎月、合同SHR等で「いじめゼロ宣言」を行い生徒がさらにお互いを思いやることのできる雰囲気作りに努めていきたい。

(7) 地域連携（コミュニティ・スクール）について

昨年度は保護者限定公開での開催となった人定祭も、今年度は地域の方々に公開することができ、多くの方々に来場いただくことができた。保護者との連携については、生徒会行事を含め、様々な行事で保護者の方々が参加しやすい環境づくりをしたいと検討中である。今後も地域や保護者と連携して、教育活動のより一層の充実を目指したい。

(8) その他

令和6年1月には、学校情報化優良校に再認定された。新時代の学びの推進に向けて、組織的に対応する体制が整っており、定時制の教育活動について積極的に情報発信したことにより、保護者だけでなく地域の方々からも多くの御支援をいただくことができた。

6 次年度への課題・改善方策

【課題】

個に応じた学習指導

【改善方策】

クロスカリキュラムによるシラバスの構築を行い、学習内容が生活や他教科の学習に生きるということを実感させ、生徒の興味・関心の喚起につなげていきたい。昨年度から始業前に実施している個別指導体制である「人定アドバンスプロジェクト」や、長期休業期間に個に応じた配布しているオーダーメイド学習課題の取組を継続して実施し、個々の生徒の学習課題や進路希望に沿った指導を充実させる。また、校内研修や五木分校との合同研修の機会等を通じて、観点別評価の事例を共有し評価方法の研究をさらに行っていききたい。

【課題】

自己肯定感をさらに高揚させる取組

【改善方策】

現在一部のクラスでSHR等に行っている「互いの良いところを認め合う時間」を全クラスで取り組むことにより、自己肯定感の高揚につなげたい。また、ボランティアや地域のためにできる活動について講演会を実施し、自分たちにも地域に貢献できることを考える機会を確保し、生徒会活動等で校外活動を実施し実感する機会をもつ。

【課題】

悩みを相談しやすい環境づくり

【改善方策】

授業担当者が授業中の生徒の言動に注意を払い、いじめの未然防止に努めていくことはもちろんのこと、常に危機感を持って事案に対応できるように、学校いじめ防止基本方針、重大事態対応マニュアルの職員研修を4月に実施する。